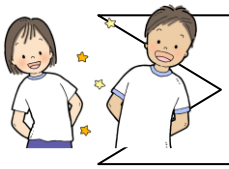

相ノ木っ子だより

令和２年度
学校だより
11　月　号
上市町立相ノ木小学校

「確かに」「なるほど」「あ、そうか」

「確かに」

３年生の男の子は、わたしにそう言うと、もう１枚の工作用紙にしっかりと名前を書きました。発した言葉は、とっさのつぶやき程度の返しでしたが、教育における大切なものをそこから感じました。

わたしが、校内の様子を見て回っていたときのことです。理科「風のはたらき」の授業で、３年生が風車を今から作ろうとしていました。軸の部分の竹割り箸、ストロー、ピンと羽根にする細長い工作用紙２枚が先生から配られ、工作用紙２枚に自分の名前を書くように言われました。その男の子は、風車製作に興味津々で、早く作りたいという思いに溢れているのが、傍から見ても分かりました。さっと１枚にだけ名前を書いて、作り始めようとしたのですが、もう１枚にも書くよう促されました。手が止まり、やや不満げな表情から、「早く作りたいのに」「１枚だけでもいいじゃん」といった思いがあるように感じました。そこでわたしは、「羽根１枚だけ落とすかもしれんね。そしたら、誰のか分からんようなるね」と話しかけました。すると、彼は「確かに」と言い、もう１枚にもきちんと名前を書き、風車を作り始めたのです。

単に名前を書くだけのこと、そんな大げさに取り上げる程のことではないと思われるかもしれませんが、大事なのは、その子が「確かに」と納得して活動を進めたことです。子供たちの学びには、「分かる」だけに留まらず、「納得する」「合点がいく」まで達することが大事です。「なるほど」「あ、そうか」といったつぶやきが出てこそ、学びの素晴らしさや意義を感じ取ることができ、子供たちの真の理解、学習の深まりが生まれます。

子供たちにとっての「楽しい授業」には、題材への興味をもたせ、体験を通してわくわくさせる「おもしろい授業」を展開することがまず大事です。そしてさらに、しっかりと理解を定着し、より子供の意欲を高めていく「分かる授業」を保障した上で、学んだことを自分のものにしていく「実感する授業」に高めることで、子供たちの真の「楽しい授業」になっていきます。教師からの一言、友達との話合い、事象についてじっくり考える時間等、学校における様々な学びの場、いろいろな体験を通して、子供たちは、理解と深まりを積み重ね、楽しく、実感しながら学んでいます。だからこそ、学校の存在価値があり、学校での集団による学びが重要なわけなのです。

先日の学習参観でも、「実感する学び」に向けたそれぞれの学年の授業を見ることができました。１年生は身の回りの自動車とその役割を、２年生は秋の動植物を、３年生は販売者と消費者の工夫を、４年生は非常時の備えを、互いに意見を出し合い、自分の考えを確かめたり、友達の考えを参考にしたりしていました。また、５年生は食料輸入について多面的な視点からその是非を議論し、６年生は天下統一への働きが大きかったのは織田信長と豊臣秀吉のどちらなのか立場をはっきりさせて討論していました。両学年とも、自分の考えを友達に「納得させよう」と努力しながら、自分や友達の考えに「納得する」時間をもつことができたのです。

また別の日に校内を回っていると、３年生が理科「光を調べよう」の授業で、虫メガネで白と黒の紙の焦げ方の違いについて実験し、気付いたことを話し合っていました。白い帽子は光を反射し、他の色の帽子よりも暑くならないことを先生から聞いた前述とは別の男の子が、わたしの方を見て、こう言いました。「白髪っていいな」と。実感がこもっていました。その子が大人になってわたしのことを思い起こすことがあるとしたら、もしかしたら光の実験についても思い出すかもしれませんね。これは、意図的な支援ではありませんが、これからもどんどん子供たちの心に残る「なるほど」を生み出していきたいものです。

生活習慣の強みと怖さ

挨拶は、人としてのマナー、エチケットであり、大切なものです。誰もがそう思っていることでしょう。また、「こちらから挨拶する」と「向こうから挨拶してもらう」で気持ちに違いがあるかもしれませんが、どちらも人の心に温かなものを与えます。ですから、挨拶を交わし合えば、その瞬間に心に温かいものがどっと流れます。そして、一人一人多少違った挨拶表現があり、それは短い言葉での人と人とのコミュニケーションを図るものでもあります。そのため、相手の気持ちをより清々しいものにする挨拶は、自分をよりよく印象付けることができますし、その人の大きな力になり得ます。こんなよいことばかりの挨拶を日々続ければ、自然と自分の力を蓄えていくことになりますが、挨拶をあまりせずに生活を送ることは、とてももったいないことです。

しかし、子供によって挨拶に対する考え方は違いますし、その習慣化も違います。ごく自然に笑顔や声の出る子は、苦も無く継続し続け、コミュニケーション能力や主体性を一層高めていくことができます。性格や気質もあるでしょうが、「したくても声が出ない」「恥ずかしい気持ちがある」「苦手意識がある」といった子は、とっかかりの一言がなかなか出せないものです。実をいうと、わたしも人見知りの方でしたし、こちらから声をかけることにも勇気がいり、「小さな声で」「会釈する」程度の挨拶が多かったです。幸いにも、教師という職業に就き、自然と挨拶が習慣化され、今は人並みのコミュニケーション能力はもっているとは思うのですが…。

会話というものには　その人の人生観の片鱗がでる。

これは、作家曽野綾子さんの「言い残された言葉」の中の一文です。挨拶も人と人のコミュニケーションですから、挨拶の仕方にその人の人生観の片鱗、歩んできた生活の一コマが垣間見えるのではないでしょうか。挨拶という行為の中に、生活習慣によって築いてきたその人の人生が表れてくるものなんですね。

さて、相ノ木っ子の生活習慣づくりのため、先月より３つのことを再開しています。一つは、いきいきタイムのさわやかランニングやなわとび、けん玉です。秋も深まってきましたが、元気に走ったり練習したりしながら体力強化を図っています。二つめは、朝の挨拶運動に、運営委員だけでなく、一週間ごとに各学年の子が参加するようにしました。登校後にその学年の子たちが集まってきて、元気な挨拶の声が響いています。もう一つは、縦割り班清掃の開始です。学年清掃でも校舎を大変きれいにしてくれましたが、また違った関わり合いの中で、習慣付け、意識付けを図りながら仲よく掃除しています。さらに、清掃場所に集まってくる際互いに声を掛け合う「こんにちは作戦」を行うようにしました。挨拶の場、バリエーションを増やし、よりよい習慣化に向けて取り組んでいます。

挨拶だけに限らず、よい生活習慣として身に付けたことは、当たり前のように自然にできるものとなり、ずっと続けていけるものになります。それが、生活を習慣化することの強みです。逆に、あまりよくないことも習慣になってしまうと、なかなか直すことができなくなります。習慣付いた悪癖は、やっかいなもので、直すのにたいへん苦労します。怖いものです。やはり、よりよい習慣を子供のうちから定着させていき、自分の強みとしていくことが理想的なのではないでしょうか。

相ノ木っ子のみんな、ちょっとずつでも努力や勇気を出して、よい習慣を身に付けていきましょう！

行事予定（１１月中旬～１２月中旬）

11月16日（月）　給食試食会（1年）
19日（木）　中学校入学説明会（6年保護者）
23日（月）　勤労感謝の日
25日（水）　ミニ駅伝大会
27日（金）　居住地校交流（1年）
30日（月）　ノーメディア・ウイーク（～12／4）

12月　9日（水）　保護者懇談会1日目
10日（木）　保護者懇談会2日目
11日（金）　保護者懇談会3日目
15日（火）　いのちの教室（5年）